おくのえいこ県政報告

明日に向かって元気いっぱい！

Vol.7
平成25年10月発行
発行：自由民主党
富山県議会議員会

ごあいさつ

秋冷の頃、皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

先日、２０２０年オリンピック・パラリンピックの東京招致が決定いたしました。最終プレゼンテーションの模様は前夜から中継されておりましたのでご覧になっていた方も多いと思いますが、日本の五輪招致委員らの最後のスピーチは大変素晴らしいものでした。中でも安倍首相のプレゼンテーションは、オリンピック・パラリンピック招致のためだけでなく、福島の原発事故からの復興に取り組む、世界に向けた決意表明だったと受け止めています。

個人的には、何人もの方が、何度も口にされた「希望」という言葉こそが、オリンピック開催の最も大きな意義だと感じています。このオリンピック・パラリンピックの東京招致決定は、経済的にも明るい材料であり、アベノミクスを強力に後押しするものですが、何より開催期間中はもちろん、２０２０年までの７年もの間、選手やそれを応援する方々が大きな夢と希望を見るわけです。

日本国民として自国を誇りに思う、本当に素晴らしい時間とチャンスを得たと思っています。

皆様がご存じの通り、１９６４年の東京オリンピックが戦後からの復興シンボルであったならば、次回２０２０年は震災からの復興シンボルとして、日本人の自信と誇りを取り戻す大きなエネルギーになると確信しています。

７年後の東京オリンピック・パラリンピックには、富山県からひとりでも多くの選手を輩出できるよう、新たな県政課題として実現に向けて働きかけていく所存です。

また近年は富山県内でも、ゲリラ豪雨などと呼ばれている局地的な大雨が頻発しており、河川の増水や住宅地での冠水被害、さらに所によっては土砂災害なども発生いたしました。被害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。年々増してゆく自然災害に、今年は改めて異常気象を実感した夏となりましたが、この異常気象により、これまで被害のなかった場所でも新たな対応が必要となっています。皆様から頂いております要望箇所については、県には現状をしっかりと伝え、一日も早い対応を訴えて参ります。

富山県議会議員
奥野 泳子

平成25年6月定例会 予算特別委員会

PICK UP

去年の9月議会にて提案していた県職員採用試験の点字受験が今年から可能となりました。
全国の都道府県では、平成24年度末までに30団体で点字受験を実施しており、富山県でも障がい者の法定雇用率が引き上げられたことに伴い、今年から点字受験を導入することが決まりました。

Q. 視覚障がい者を採用するにあたっての受け入れ態勢について

A. 障がいの程度を十分に配慮しつつ、職員の意欲に応じて、その持てる能力を最大限に発揮できる職務に従事できるよう人事配置を心がける。また円滑な職務遂行のため、業務上必要な点字ディスプレイやパソコンの読み上げソフトなどの機材導入、周囲の職員の業務補助といった支援も合わせて検討する。
まずは県民からの保健福祉や消費者電話相談への対応業務など、書類による事務処理が少なく、比較的移動を伴わない業務を中心に従事してもらうことが望ましいと考えている。

PICK UP

障がい者の法定雇用率の算定基礎が見直され、平成30年4月1日からは精神障がい者も算定基礎に追加されることになりました。今や精神疾患の患者の数は、全国で320万人とも言われ、4大疾患であるがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病よりも多くなっています。

Q. 精神障がい者の民間企業への雇用推進について

A. 障害者雇用推進員による企業訪問や県広報誌を通じた障害者雇用制度の周知普及をはじめ、障害者就業・生活支援センターによる就業支援や短期の職場実習、一定数以上の知的・精神障がい者を雇用している事業主に対する奨励金の支給により、平成24年度の障がい者の就職件数は998件と過去最高となった。なかでも精神障がい者の就職件数は、対前年度比で29・6%増の396件と大きく伸びている。
今年度からは新たに中小企業向け実務講座を開催し、各障がいの特性を踏まえ、雇用に際しての留意点のほか、短時間勤務などの柔軟な雇用形態の採用や優良事例についての解説、紹介も行っていく。

PICK UP

富山県の基金事業のうち、関西電力および北陸電力の株式の運用益を財源とするものが6事業あるが、そのうち関西電力株の運用益を財源とする4基金事業においては、昨年度の配当がなかったことから、基金からの予算計上ができず、一般財源からの穴埋め措置となりました。その金額は4事業の合計で1億667万1000円にも上ります。

Q. 株式の運用益が大幅に減少した場合の基金事業の対応について

A. 本県の財政状況は大変厳しい状況にあり、基金事業のみならず、すべての事務事業は施策の厳正な選択と財源の重点かつ効率的な配分を基本方針としている。
従来、株式の配当を基金の財源にしていた理由は、安定的な財源が確保できるという考えがあったわけだが、昨今の電力業界を見ると、安定的な財源確保に懸念を持っている。今回の関西電力の株のように、北陸電力でも運用益が大幅に減少した場合には、その都度事業の必要性を判断し、必要と考えられる場合には精査した上で、一般財源など他の財源により対応せざるを得ない。
現行の基金条例では、基金本体の取り崩しはできない条文になっているが、今後この基金の在り方を含めて検討していかなくてはならない。

Q. 県農林水産総合技術センターの役割について

A. 県の農業水産総合技術センターは、農業、林業、水産業、食品など、各分野に関する7つの専門的な研究所と、果樹研究センターを合わせ

た8体系から成る試験研究機関であり、それぞれの県の振興方針や自然特性に応じた生産現場からのニーズに即して、栽培管理や気象条件に応じた技術対策などの諸問題を解析し、その解決を図ることや生産力の向上、新たな需要の開発に繋がる新種・新技術の体系化を図っている。

その結果が普及指導の裏付けとなり、生産現場で活用されることによって、県の農林水産物のブランド化や収益性の向上、環境にやさしい農林水産業の振興に寄与していると考える。

PICK UP

県の農業水産総合技術センターでは、毎年135件程度の研究をしています。分野別では、農業分野で70件、食品分野で15件、林業分野で35件、水産分野で15件程度。

高温条件下でも品質を落とさない「てんたかく」や「てんこもり」といった水稲の本県オリジナル品種や、県花チューリップのオリジナル品種のほか、花粉症への抜本的解決にもつながる全国初の優良無花粉スギ「立山森の輝き」などの実績があります。

Q. 農林水産分野における産学官連携や民間資金を活用した研究への取組みについて

知事

A. 閣議決定された日本再興戦略の中でも、農林水産業を成長産業としていくため、新しい育種技術や高機能・高付加価値の農林水産物の開発が必要だと強調されている。

予算のシーリングでは、経常的な経費はマイナス5%が原則だが、農林水産総合技術センターでは、一般財源で同額を確保した上での要求を認めている。さらに外部資金も獲得しようと、国や独立行政法人、企業との共同研究や委託研究にも積極的に取り組んでいる。

攻めの農業と言われる時代、行政改革等の厳しい財政事情もあるが、できるだけ重点化、効率化を図り、外部資金の導入を積極的に活用し、研究開発を進めていきたい。

【国を守るとは？】

8月25日、陸上自衛隊最大の公開訓練、富士総合火力演習を視察してきました。

当日は生憎のお天気。時折強く降る雨や霧のため、ヘリコプターを使った訓練など、いくつかが中止となりました。

しかしながら、一糸乱れぬ戦車の隊形移動や放たれる砲弾の迫力たるや凄まじく、それこそが「国家、すなわち領土と国民を守るため」の訓練なのだということを目の当たりにしました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の現場で、一躍存在感を増した自衛隊ですが、その本分は災害救助ではなく、あくまでも国防であり、そのための部隊なのです。

自衛隊の位置づけについて憲法に明記すべきはもちろん、その名称について自衛隊はよくて国防軍ではだめだといった言葉遊びのような議論もあるようですが、安全保障と自衛権の本質についてしっかり議論をしなければならないと感じています。

私たちの日常の幸せは、自衛隊の体を張った訓練の日々と使命感に支えられているのは間違いありません。それを忘れてはいけないのです。

ちょっとこぼれ話

皆さんは「はだしのゲン」を読んだことがありますか？

島根県松江市教育委員会の閉架措置と、その撤回騒動で一躍関心を集め、「はだしのゲン」は大幅に売り上げを伸ばしているそうです。

さてこの騒動をおさらいしてみると、「はだしのゲン」は市民から「反日的で自虐史観を植え付ける」「左翼的で共産主義を賛美している」として、学校現場からの撤去要請を受けたことから始まりました。

しかしこれは松江市議会で不採択となり、教育委員会が独自に「首を切り落としたり、女性に対する性的な暴力シーンは小中学生に好ましくない」との理由から、貸し出しや自由に閲覧することのできない閉架措置を行っていました。が、この措置をめぐって、表現の自由などを理由に議論が再燃し、結局松江市教育委員会は閉架措置の取り下げをしたという経緯があります。

さてここで気になるのが、市民からの訴えと教育委員会の閉架措置の理由が全く異なっていることです。そもそも何を理由に撤去を要請されていたのか、ということを詳しく報道したメディアは少なかったと感じますし、指摘された問題がすり替えられていたのではないかとの印象も受けています。

私自身が「はだしのゲン」を最初に読んだのは、小学校5年生の頃でした。原爆の被害の凄まじさはもちろん、一番印象に残ったのは、主人公の生に対する執念や、厳しい環境の中を生き抜いていく逞しさでした。当時は、左翼的やら自虐史観やらという意識をせず読んでいた訳ですが、今回松江市の騒動を機に読み返してみると、なるほど市民の主張に納得する部分は多くありました。戦争反対自体は、誰もが共感する部分ですが、天皇陛下を戦争犯罪者として罰するべきという主張から、愛国心の否定、また朝鮮の人たちに対して残虐な行為をしていたという歴史認識の部分では、事実とは異なり、子供たちへの推奨図書とは言い難いと感じています。もちろん表現の自由や言論の自由はありますし、原爆や戦争の悲惨さを訴える意味では、はだしのゲンは一定の役割を担ってきていますが、学校が教育の一環として勧めるのであれば、思想的に随分と偏っており、疑問を呈するところです。

自虐史観をはじめとする教科書問題や歴史認識問題がクローズアップされる中、子供たちに対しては、思想や政治的には中立に、原爆被害に特化した作品を推奨するか、「はだしのゲン」とは別の視点で描かれた作品も一緒に配置し、原爆や戦争を二度と起こさないという中にも、立場によって見方によってさまざまな価値観や捉え方があったのだということを知り、様々な見解から、自己の価値観や思想を確立していってほしいと思います。

6月議会一般質問の詳しい様子は、富山県議会のホームページでご覧いただけます。

htpp://www.pref.toyama.jp/section/0100/

ホームページを新しくしました。ぜひご覧ください。

http://www.okunoeiko.jp/

Facebook 友達リクエストの際にはメッセージを一緒に送って頂くようお願いします。

Twitter 本人アカウント 奥野詠子(@Eiko_Okuno)　後援会アカウント 奥野詠子県議 後援会 詠桜会(@eiokai)

連絡先

富山県議会自民党控室
〒930-8501 富山市新総曲輪1－7
TEL 076(431)5244 FAX 076(441)8421

議員事務所
〒939-8073 富山市大町282
TEL 076(420)3530 FAX 076(420)3536

E-mail:okuno.eiko@lime.plala.or.jp